

マジック・ジャッジ規約

2019年2月19日

もくじ

はじめに

ジャッジ規約の理念

不品行申立の扱いにおける考慮事項

不品行の確認

不品行の解決

付録A - 更新履歴

はじめに

マジック・ジャッジ規約（「本規約」）の根幹を成す価値観は、奉仕心、高潔さ、公共心、敬意、信頼である。これらの実例としては、例えば他者を敬意を持って助けること、イベントの規定を守ること、マジックをともに楽しむことのできる包括的環境を作り上げることなどが含まれる。

これらの価値観は時に重複し、時に競合することもある。本規約の各要素は、複数の価値観によって支持されている。これらの価値観相互の調整が必要なこともあるが、その場合にもジャッジ・プログラムの道標であることに変わりはない。

ジャッジとは、これらの価値観を支持し、自身の時間を使ってイベントを運営したり裁定を広めたりコミュニティの問題を解決したりする存在である。地元の店でルールの問題に答えるジャッジも、プロツアーのヘッド・ジャッジも、ジャッジは皆マジックを楽しいものにするるとともにマジックのイベントを公正なものにするという目標を共有している。

ジャッジはコミュニティにおいて信頼と権限を有する特別な立場にある。我々はルールを施行し、懲罰を与え、場合によってはプレイヤーを失格にすることもある。コミュニティは、ジャッジがその地位と権限に相応しい振る舞いをすると考えている。この目的のため、性犯罪者登録を受けていると判明したジャッジがジャッジ・プログラムのメンバーであり続けることは許容されない。しかしながら、登録に影響を及ぼす重大で例外的な事件の場合には、その状況について説明する公正な機会が与えられるべきであるということもわかっている。

全ての状況説明は、ジャッジ規約委員会（JCC）ならびに担当の地域コーディネーターに行なわれる必要がある。JCCが【制裁なし】と裁定した場合も、当該ジャッジは現地の法律やウィザーズ・オブ・ザ・コーストのイベント主催者やWPNイベントに関する条件に従う責任は免れない。

この文書は、ジャッジが自らの責任を理解する助けとなるものであり、何が許容され、何が許容されないのかを定義する助けとなるものである。マジック・コミュニティにおけるジャッジの振る舞いは、イベントにおいてジャッジが信頼される専門家として振る舞うことに影響するが、ジャッジ・プログラムの影響範囲には限界がある。マジック・コミュニティに関係のない人間関係など、ジャッジの私生活を管理・制約するのはジャッジ・プログラムの影響範囲ではない。

ジャッジ・プログラムの会員であることは双方向的に任意であり、ジャッジはいつでもジャッジ・プログラムから脱退できるし、ジャッジ・プログラムも、ジャッジの行動に基づいて資格停止をしたり認定レベルを変更したり除名したりできる。

ジャッジ・プログラムは会員の申告された不品行について調査し、対処する。ジャッジ・プログラムによる不品行への対処は、価値観を守るためであり、安全で快適なマジック体験を守るためであり、コミュニティから見たジャッジ・プログラムの立場を守るためである。

ジャッジ規約の理念

ジャッジは、マジック・コミュニティへの責任を果たすために追加の権限を与えられている。コミュニティは、ジャッジがジャッジとしての立場や権限を公正かつ明瞭に使うものとしてジャッジに権限を委託している。

ジャッジは、自身のジャッジとしての立場や権限を公正に使うべきである。

ジャッジは、自身の立場や権限を、公正にかつ該当するイベント関連文書の指針に基づいて用いるべきである。ジャッジはマジック・コミュニティの全メンバーを、そのメンバーの人種、性別、ジェンダー、性同一性、皮膚の色、宗教、出身国、性指向に関わらず公正に敬意を持って扱うべきである。コミュニティ・メンバーの評判、名声、技術などによって、ジャッジは扱いを変えるべきではない。ジャッジは問題行動の来歴のある個人の行動をより注意深く検証することは許されるが、その行動が故意の違反であるかどうかに関してその評判だけに基づいた偏った判断をすべきではない。

ジャッジは、個人的な利益や悪意のためにジャッジとしての立場や権限を使うべきではない。

ジャッジはマジック・コミュニティに奉仕すべきである。ジャッジは、ルール適用度が一般のイベントにおいて自分のマッチで裁定の必要がある場合に自分に有利なように偏った裁定を下すべきではない。ジャッジは、個人的に気に入らないからと懲罰を下したり、あるいは個人的気に入っているからと懲罰を下さないようにしてはならない。ジャッジは、その信頼を用いて詐欺を働いたり、プレイヤーのデッキやイベント主催者の商品を盗むなど不誠実なことをするためにその立場を利用したりしてはならない。ジャッジは、与えられた信頼から決して不正に利益を得てはならず、身近な人々の境界やプライバシーを尊重せねばならない。ジャッジは、入手できる個人情報を出したり、その所有者からの明示的許可なく不当な情報源に提示したりしてはならない。

ジャッジは、快適な環境を作るべきである。

ジャッジはマジック・コミュニティの一員として、誰かが嫌がらせを受けた、脅された、虐められた、つきまとわれたなどと感じるような行動がおこなわれないようにする責任を持つ。ジャッジにはそれに加えて、これらの行動を受け入れず、マジック・コミュニティの全てのメンバーが快適だと感じる環境を積極的に作っていく責任がある。ジャッジは他者が悪い環境を作ることを見逃すべきではない。ジャッジは、自身がスタッフを務めるイベントにマジック・コミュニティの他のメンバーが参加して不快に思うような見解を公表すべきではない。

ジャッジは自身の行為やジャッジとしての立場・権限に関する責任を持つべきである。

ジャッジは、マジック・コミュニティの他のメンバーが自身の行為を報告することを妨げようとするべきではない。不品行を報告したことへの報復はいかなるものも認められない。ジャッジは、報告しようとする個人に対し報告手段を隠蔽しようとするべきではない。ジャッジは自身の誤りを認めて受け入れるべきであり、また、意思疎通においては誠実かつ直接的であるべきである。

プレイヤーとして不品行と思われる行為は、ジャッジとしても不品行である。

マジック違反処置指針において「非紳士的行為 — 重度」や「故意の違反」になる行為、あるいは一般 REL において『重大な問題』になるような行為は、ジャッジとしても不品行である。プレイヤー調査委員会において資格停止などの制裁を招くような不品行は、ジャッジ・プログラムからも少なくとも同じ期間の資格停止など同等の制裁を受けることになる。

不品行申立の扱いにおける考慮事項

ジャッジはマジック・コミュニティの最善のあり方とジャッジ・プログラムの価値観を反映する義務がある。ジャッジ・レベルが高いということは、コミュニティにおけるさらなる信頼とステータスをもたらす。従って、ジャッジの認定レベルやプログラム上の役割は不品行の調査において考慮されることになる。不品行について判断する場合、2つの要素が特に重要視される。申し立てられた不品行とマジックの関わりの深さと、その行為の裏にある意図である。

マジックとの関連性

マジックとの関連性は、申し立てられた不品行がその人物のジャッジとしての立場とどれほど関係しているかを計るための方法である。

たとえば、地域コーディネーター、プログラム・コーディネーター、グランプリ・ヘッドジャッジの公共での振る舞いは、コミュニティにとってマジックやジャッジ・プログラムに関連したものとして考えられ、プログラム内の他のジャッジとは全く違うものとなる。つまり、上級役割を持つジャッジは自身の公共での振る舞い全てが少なくとも部分的に関連しているものとして考えるべきである。

不品行を考慮するにあたって、その行為はマジックとの関連性に基づいて3種類に分類される。

- マジックやジャッジに直接関連している行為
- マジックやジャッジに部分的に関連している行為
- 関連していない行為

各分類の定義については以下に述べる通りである。

直接関連している/Directly Connected

これには、認定ジャッジとしての行為や、自身を認定ジャッジであると明言した上での行為が含まれる。

例：

- ジャッジとしてイベントで働いている間の行動（休憩中も含む）
- ジャッジの服を着ている間の行動
- 自身をジャッジだと明言した上での行動。例えば自身がジャッジ・シャツを着ている写真をソーシャルメディアのアイコンにしている場合や、信頼を得るためにジャッジ資格を用いている場合など。
- ジャッジ Apps や公式な Magic Judge の Facebook のページなど、公式なジャッジ議論のおこなわれるウェブサイトでの行動
- Facebook、Discord、Slack チャンネル、IRC など、デジタル上の特定のジャッジ空間での行動

制服を着ているジャッジはジャッジ・プログラムとマジック・コミュニティを直接代表しているので、制服を着ている、あるいはイベントでジャッジとして働いている間の不品行は、常に本規約の対象となる。公式なジャッジ関連サイトへの投稿もまたこの基準に従う。

同様に、ジャッジが、自身がジャッジであることを用いて信頼を得ている場合、そのジャッジの行為はこの基準に従う。ジャッジの制服やロゴは、それを用いているジャッジの行動がジャッジ・プログラムに関連しているという印象を与える。

この役割にある間の不品行は、「部分的に関連している」あるいは「関連していない」場合の不品行よりも強い制裁を招く可能性がある。

部分的に関連している/Partially Connected

これには、マジックのイベントにジャッジ以外の形で参加している間の行為、マジックに特に注目している観客に話している間の行為、マジックやジャッジに深く関わっている個人として発言している場合の行為が含まれる。

例：

- マジックのイベントにプレイなどジャッジ以外の形で参加している間の行動
- 『Magic Online』でプレイ、トレード、その他交流している間の行動
- 非公式なマジックのウェブサイトやマジック関連の SNS での投稿
- マジックのイベントに併催されている交流イベントでの行動

マジックに関連している限り、不品行はジャッジ・プログラムとその会員に悪影響を与える可能性がある。ジャッジの行為は、そのジャッジに対するジャッジ・プログラムからの評判や信頼に影響を与える可能性がある。この分類に入る不品行はジャッジ・プログラム全体やマジックそのものに影響

を与えるとは限らないが、コミュニティのジャッジへの見方やコミュニティのそのジャッジへの信頼を傷つけることはある。

関連していない/Not Connected

マジックやジャッジと不品行との関わりが、その不品行に関係する個人が認定マジック・ジャッジであるという点だけであるなら、その不品行はジャッジ・プログラムが考慮すべきものではない。ただし、非常に深刻な不品行の場合、ジャッジ・プログラムが考慮すべき重要で例外的な事件となることはありうる。

意図

JCCはそのメンバーの広い経験や文化的背景を踏まえて、調査を通して得られたあらゆる発言や証拠からジャッジの行動を解釈し、意図の評価を下す。「なぜ」その行動をしたのかは、その行動が「何」であるかと同様に重要である。これらの分類のための例示は行なわない。

意図の裁定は、主に2つの要素に基づいて行なわれる。

- そのジャッジの行動が規約を侵害していることをそのジャッジが知っていたかどうか
- そのジャッジの行動が繰り返されていたかどうか

JCCは意図と知識について解明を標準化するため、3つの分類を用いる。

- JCCが、そのジャッジがその行いが本規約違反であることに気づいていなかったと確信した場合、妥当な分類は「無知/Ignorant」である。
- JCCが、そのジャッジは知っていたかあるいは当然知っているべきだったと確信し、しかし繰り返されてはならず、またそれを隠匿しようとする意図的な行動をしていなかった場合、妥当な分類は「偶発的/Oppportunistic」である。
- JCCが、そのジャッジは知っていて、繰り返されているか計画的であるか意図的に隠匿しようとしていたと確信した場合、妥当な分類は「計画的/Premeditated」である。

無知/Ignorant

例外となる特定の状況を除いて、無知による振る舞いは厳しく咎められることはない。JCCは、その行ないが規約違反であったことを全く認知していなかったジャッジに懲罰を与えることは望まない。

偶発的/Oppportunistic

JCCは、ジャッジが規約違反となる行動につながる衝動的な反応を示すことがあり得ることを認識している。ジャッジが判断を誤った場合、JCCはその行ないを、侵された違反に応じて一定までは許容することができる。

計画的/Premeditated

先の2つの分類とは異なり、計画的に分類される行為を含む場合、JCCが甘い判断を下すことはない。

ジャッジは、計画的な不品行が他の状況よりも遥かに厳しく罰せられることに責任を持つ。特にこの分類において、最も正確に解明するため、特定の状況が考慮される。他のジャッジやマジック・コミュニティのメンバーを傷つけようと意図的に試みることは決して許容されず、その種の行為は厳しく扱われることになる。

不品行の確認

ジャッジの行為が問題であるかどうか、またその不品行がジャッジ・プログラムから見てどう解決されるべきかを決定するためにジャッジ規約委員会（JCC）を置く。JCCは、プログラム・コーディネ

ネーターと地域コーディネーターによる定期的な手続きの元で選ばれたレベル3 ジャッジによって構成される。

JCC のメンバーは、当該ジャッジからの主張などの情報を共有する。当該ジャッジは、JCC での交渉世話役 (CF) を務めることに同意するジャッジを指名できる。CF を置く目的はコミュニケーションを円滑にし、委員会からの圧迫感を和らげ、当該ジャッジが孤立していると感じないようにすることである。CF は性格証人ではない。不品行を告発されたジャッジや、JCC が求める情報を持っている可能性のあるジャッジとの連絡は、特に他の手段が指定されていない限り、ジャッジ Apps でそのジャッジが提供しているメールアドレスを使って行われる。

必要な情報を収集し、考慮したあとで、JCC はその事例がどのように解決されるべきだと考えているかという提言をまとめる。その提言において、委員会の委員は申し立てられているジャッジがその不品行、マジックとの関連性なども踏まえたその事例における特定の状況に関して責任を有するかどうかを検討し、審議する。その決定は、発効する前に、地域コーディネーターとプログラム・コーディネーターに報告される。

JCC は、疑念を申し立てた人物ならびにその対象となったジャッジに対し、調査の次の工程が何であるかと終了予定時期についての情報を開示し続ける責任を有する。

JCC はありうる不品行の状況について整理するため、手順と推奨される解決策を詳細に提言した文書を用いる。ただし、このシステムの悪用を防ぐため、この文書は非公開とする。

【資格停止】ならびに【除名】となったジャッジの一覧は、JCC、地域コーディネーター、プログラム・コーディネーターにのみ公開される。これらのジャッジは、必要に応じて資格停止中のジャッジに関して関係のある個人と意思疎通することが認められる。

不品行の疑いの報告

不品行の疑いについては、そのジャッジを管轄する地域コーディネーターに報告されるか、完全匿名の報告としてマジック・ジャッジ報告フォームから報告される。

地域コーディネーターには次のページから連絡できる。

<http://blogs.magicjudges.org/contact/contact-a-regional-coordinator/>

報告フォームは次のページに置かれている。<http://feedback.magicjudges.org>

不品行の疑いについては上級役割を持つジャッジまたは JCC のメンバーに報告してもよい。その場合、その報告は JCC に上げられる。

イベント中の不品行の疑いは、何らかの方法での JCC への報告に加えてイベント主催者にも報告されるべきである。

なお、ジャッジ・プログラムと上記の過程は、司法に代わるものではない。法律違反やその疑いのある類の深刻な不品行は、司法機関に通報されるべきである。

不品行の類例

ジャッジがジャッジ・プログラムの判断と、JCC がどのような行為に対処するかということを理解する助けとなるよう、不品行を以下の類例に分類する。これらの説明は、同時に JCC が同種の違反を一貫して公正に解決するための助けにもなる。ルール裁定の誤りなど、ジャッジが誠実にしようとしていた場合の誤りは不品行には当たらない。

注：これは完全な一覧ではない。

イベントの完全性の侵害

ジャッジが悪意あるいは不誠実さをもってイベントの完全性を侵害した。これはジャッジがジャッジとしての地位や権限を悪用して対立で有利を得たときが該当する。また、ジャッジが自身の臨席しないイベントでスタッフとして登録した場合も該当する。

認定イベントの完全性を守るため、この不品行に懲罰を課す。

例：

- ジャッジが、ラウンドでの組み合わせを故意に操作して、友人たちが最終戦まで当たらないようにした。
- ジャッジが、プレイヤーが自分の友人だからと言って対戦相手のデッキリストを不正に見せた。
- イベント会場に物理的に臨席できないことを知りながら、自身の認定を維持する条件を満たす目的でジャッジが主催者に自分をジャッジとして登録するように頼んだ。

ジャッジの地位の不実表示

これは、誰かが利益を得たり懲罰を回避したりする目的で自分を認定マジック・ジャッジであると名乗った場合が該当する。認定ジャッジであると嘘をついた個人は、ジャッジとしての誠実さや信頼性に欠けていると言える。

例：

- ジャッジ試験の結果を誤解して、プレイヤーが自分をジャッジだと思い込んでいた。
- ジャッジが、主催者に印象づけ、あるいは主催者から利益を得る目的で、実際よりも高いレベルのジャッジであると名乗った。
- イベントの認定を得る、あるいは報告するために必要な条件を満たすため、あるいはコミュニティで雇用や信頼を得るためにジャッジでないプレイヤーがジャッジであると名乗った。

重大な交渉上の問題

ジャッジは、プレイヤー、観客、他のジャッジ、主催者と適切な交渉をおこなうことを期待されている。

重大な交渉上の問題とは、ジャッジが、プレイヤー、観客、ジャッジ、主催者との適切な交渉に重大な形で失敗することを言う。この失敗の結果は、しばしば、対立の目に見える形での致命的な深刻化や労働関係の消滅となり、ジャッジ・プログラムのイメージにも影響を及ぼすことになる。

ジャッジが、感情的苦痛や心理的苦痛、その他物理的でない被害を他者に与えると想像できるべきことをした場合にも、重大な交渉上の問題となりうる。これにはプライバシーの侵害も含まれる。この種の行為を繰り返すことは〔ハラスメント〕になる。物理的な被害の恐れがある場合、〔暴力行為〕になる。

これには、不品行を報告した、あるいは報告したと思われた、個人へのあらゆる報復も含まれる。コミュニティのメンバーは、報復を危惧することなく不品行を報告できるべきである。

これには、特にソーシャルメディアにおける、一般的な不親切さ、無愛想さ、その他非社会的態度は含まれない。

JCC が、そのジャッジがその振る舞いを不適切であると知っていて、繰り返していたり、計画して行動していたり、意図的に隠匿しようとしていたと確信したなら、妥当な分類は「計画的」になる。

例：

- ジャッジが、イベント会場において同僚と怒鳴りあい始めた。
- イベント主催者との話し合いの場で、笑いを取ろうとして差別的文言を口にした。
- ジャッジが、イベントで特定の個人を探し、その性的外見を侮辱した。

ハラスメント

ハラスメントは、体系的・継続的な、個人またはグループの迷惑な行為であり、脅迫、強要、威嚇、支配などが含まれる。

性的かどうかにかかわらず、ジャッジによるハラスメントは許容されない。ハラスメントの訴えは、被害者の保護と被害者への配慮を持って扱う。

例：

- ジャッジが、イベント後の宴会の席で他のジャッジに言い寄り、拒絶されても即座に止めなかった。
- ジャッジが、指導しているジャッジ候補生に恋愛感情を持ち、拒絶されても指導する立場を利用してつきまとおうとした。

信頼の悪用/プログラム上の役割の悪用

ジャッジは、プログラムや他のジャッジ、プレイヤーに関する個人情報や機密情報を入手することを信任されることがある。また、プログラムの資産を信任されることもある。これらの信頼を破ることは、ジャッジ・コミュニティ全体のイメージに影響を与える問題行動である。

これには、ジャッジが、権限を有しない情報を個人的な利得を得るために故意に入手することも含まれる。

例：

- ジャッジが見返りを受け取ってイグザンプラーに誰かを推薦した。
- カンファレンスの責任者であるジャッジが、追加のフォイルを手に入れる目的で参加者の数を偽った。
- ジャッジが、他のプロジェクト・メンバーとの確執から、プロジェクト関連の共有文書を意図的に破壊した。
- ジャッジが、使用中の認定試験の正解表を故意に提供した。
- ジャッジが、受験中あるいは受験予定の試験の正解表を不適切に探した。

暴力行為

ジャッジが、他者を肉体的に傷つけ、あるいは傷つける恐れを与えた。これは決して認められるものではなく、厳罰に処せられる。この行為がジャッジ本人あるいは他人への肉体的被害を防ぐためのものであった場合、JCCはその事情を考慮するものとする。

例：

- ジャッジが、殴り合いを終わらせるためにその殴り合いに参加した。
- ジャッジが、侮辱されて腹を立ててプレイヤーを殴った。
- ジャッジが、性的暴行を企てて誰かを呼び出した。

賭博・買収

ジャッジが、イベントに関する何かに関して賭けをおこなったり、賄賂を求めたり、賄賂を受け入れたり、該当する規定を適用させずに賄賂を無視したりした場合が該当する。

マジックに関する賭博は許容されない。賭博を許容、勧誘、黙認することはジャッジ・プログラムの完全性を害するものである。

例：

- ジャッジが、【失格】に繋がるプレイヤーの違反を無視する見返りとしてプレイヤーに賄賂を求めた。
- ジャッジが、友人がイベントでトップ8に入るかどうかという賭けをした。

窃盗

ジャッジが、プレイヤー、他のジャッジ、店舗、主催者の所有物を盗んだ場合が該当する。ジャッジ・プログラムにおいて、いかなる形でも窃盗犯は許容されない。

例：

- ジャッジが、ドラフトの予備のブースターを盗んだ。
- ジャッジが、イベントで自身がジャッジを務めている店から、店長の許可なく商品を取った。

不品行の解決

重大さの軽い順に、解決の内容を列記する。この解決と同時に、各事例個別の状況に従って追加の連絡や措置、制裁がある場合もある。解決は不品行の種類、マジックとの関連性、意図を考慮して定義された指針に基づく。

【制裁なし】

JCC に事例が提出された後、JCC がその事例に懲罰を与える必要は無いと判断した場合、解決がなされたこと、【制裁なし】であることを伝える手紙がそのジャッジに送られる。

【警告文】

【警告文】は、その対象のジャッジに問題行為であると認識させることを目的としている。同時に、そのジャッジの行為をジャッジ・プログラムの継続的方針にあわせて改めることを求めるためのものである。

【資格停止】

【資格停止】はもっとも複雑な解決である。【資格停止】は、行為を反省し、改める機会として、ジャッジ・プログラムからの一定期間の隔離を強制する。問題行動をそのジャッジに指摘し、その行為を改めることをジャッジ・プログラムへの再参加の条件とする。【資格停止】はまた、ジャッジ・プログラムが問題行動を深刻に受け止めることの表明でもある。

資格停止中のジャッジは、ジャッジとして活動することや自身をジャッジだと名乗ることを避けるはずである。DCI や WPN の認定イベントにジャッジとして参加することは認められない。ジャッジ・カンファレンスへの参加は認められない。

資格停止中のジャッジの、ジャッジ Apps でのアカウントは有効なままであるが、資格停止中のジャッジは認定ジャッジのみによる議論を読むことはできても参加すべきではない。資格停止になっても、ジャッジ Apps 以外の、認定ジャッジのみのフォーラムやグループから脱退する必要はない。しかし、グループの管理者が、その裁量によってそのジャッジを除名することは認められる。

ジャッジ Apps へのアクセスは、資格停止には影響されない。資格停止中のジャッジもレビューを提出したり、練習問題を解いたりなどジャッジ Apps のツールを使うことができる。資格停止中のジャッジは、資格停止を受けた時点で編集中だったレビューを完成させることが推奨される。資格停止中のジャッジは、認定や昇格のために指導している相手を他のジャッジに引き継ぎ、指導を継続するとともに無用な遅延を防ぐべきである。

資格停止中のジャッジは、現在進行中のジャッジ・プロジェクトに積極的に参加すべきではないし、特に主導的立場においてはそうである。しかしながら、そのプロジェクトのリーダーが、資格停止が終わった後のプロジェクトの継続性を保つために資格停止中のジャッジを自分のプロジェクトに参加させ続けることは認められる。資格停止中のジャッジをプロジェクトに参加させ続けることを認めるかどうかは、そのプロジェクトのリーダーの判断による。プロジェクトのリーダーが資格停止になったという場合には、即座にそのプロジェクトの控えのリーダーがリーダーになるべきである。

資格停止中のジャッジは、表彰の提出によるイグザンプラー・プログラムへの参加は認められない。資格停止中のジャッジが資格停止中に提出した表彰は公開されず、それによる送付も行われない。資格停止中のジャッジへの表彰や、資格停止中、あるいは資格停止前に提出されたそのジャッジへの表彰によって送付が行われるかどうかは、イグザンプラー・プロジェクトの裁量による。

ジャッジ Apps で資格停止中のジャッジをジャッジとして選んだイベント主催者は、資格停止中であることを知らされる。そのイベントのスタッフとして資格停止中のジャッジを使うかどうかは、主催者の判断による。ただし、資格停止中のジャッジがイベントでジャッジとして活動した場合、資格停止を無視したものと判断されることになる。

【降格】

【降格】は、ジャッジの活動がそのレベルに相応しくない、あるいはジャッジのレベルに対する敬意や権限、責任がその不品行において重要な要素である場合に適用される。この制裁は主に、レベルに伴う特定の特権をジャッジに与えないようにするために用いられる。

【降格】は、【資格停止】とともに与えられることがある。レベル1 ジャッジに関しては、【降格】と【除名】の間に違いは存在しない。

【除名】

【除名】は、JCC がそのジャッジはジャッジ・プログラムの一員であるべきではないと判断した場合に用いられる。これは JCC がとり得るもっとも重い制裁であり、軽々に扱われるものではない。

追加措置として、JCC はそのジャッジが将来認定されることがないようにすることもある。

解決と上級役割

上級役割はプログラムにおける特別な立場であり、さらに高い基準に従う。資格停止を受けたジャッジは、その資格停止が終わってから2年の間は上級役割に応募することはできない。上級役割のジャッジが資格停止や降格、除名となった場合、その上級役割を失う。

ここにおける上級役割とは以下のものを指す。

- GP ヘッドジャッジ、GPHJ リード
- 地域コーディネーター、RC リード
- JCC メンバー、JCC リード
- プログラム・コーディネーター

上訴

ジャッジが望む場合、結果を知らされてから7日の間、JCC による決定をプログラム・コーディネーターに上訴することができる。その場合、ジャッジは、調査に含まれていなかった追加の情報か、過去の情報が不正確に理解された理由を示す弁明を提供しなければならない。

プログラム・コーディネーターは、個人の上訴申請を受け入れる義務はなく、基本的には JCC の決定が維持される。上訴手順の一部として、追加の調査が行なわれ、その結果として【資格停止】の期間が延長されることもあり得る。上訴の間、プログラム・コーディネーターは問題に関連する全ての声明や JCC による議論を参照できる。

付録 A - 改版履歴

2019 年 2 月の変更点

- 文法上の誤りの訂正
- 明瞭化（「JCC」という表記の一貫した使用）
- 解決を決定する上での意図の利用についての説明を「意図」の項目から「不品行の解決」の項目に移動
- 地域コーディネーター諮問委員会（RCAC）への言及の削除
- 追加：JCC メンバーは交渉世話役を務められない
- 「信頼の悪用/プログラム役割の悪用」に、個人的利得のために故意にジャッジ試験の正解などの非公開情報を入手することを追加
- 「上訴」の項目を新しい上訴手順に則って更新
- 「ジャッジ詐称」から「ジャッジの地位の不実表示」に項目名を更新
- 上級役割についての記述を更新

2018 年 10 月の変更点

- 文法や綴りの誤りの訂正
- 古いジャッジの情報ページやツールについての言及（ジャッジセンター、ルール・アドバイザー試験など）の削除
- 「不品行申立の扱いにおける考慮事項」の項目の追加

- 「上訴」の項目の追加
- 代理人を、役割の意図を正確に反映するように交渉世話役に変更。（代理人という表記は更新履歴に残っている）
- 読みやすいように段落を再配置
- 資格停止を受けたジャッジはその後2年間上級役割に応募できないというポリシーの追加
- プログラム・コーディネーターはその裁量により提出された上訴を扱うことができると追加

2018年2月の変更点

- 誤字や不明瞭な部分の修正。
- 性犯罪者も他のジャッジ同様解決を主張することができることを追記した。

2018年1月の変更点

- 「信頼の悪用/プログラム上の役割の悪用」の追加
- 「ジャッジはジャッジの立場や権限を不正な個人的利益や悪意のために用いてはならない」という理念の更新
- 追加：性犯罪者登録を受けている者はジャッジ・プログラムの一員として認められないと明記

2016年4～5月の変更点

- レベル4、レベル5への言及を削除したなど、NNWOに関して編集した。

2015/12/24版の変更点

- 重大で例外的な状況においてはWotCが指揮することがあると記載した。
- ジャッジでもあるプレイヤーの資格停止はPICだけでなくWotCも可能であると明記した。
- ジャッジと代理人の意思疎通手段としてJudgeAppsのメールアドレスを推奨した。
- [重大な交渉上の問題]で、Facebookを監視しているわけではないことを強調し、全体として不親切なものではなく個別のおのが問題だと明記した。
- 資格停止についてカンファレンスやイグザンプラーへの対応を明確化した。
- 委員会に関わる人物に地域コーディネーターを追加した。
- 代理人の役割について詳細を記すとともに、L3という条件を外した。L3は推奨されるが、実際は当該ジャッジが求めるのであればL2でも問題はない。
- 誤字の修正。過去の「付録A」を本文に編入、分割。

2015/01/01版の変更点

- 誤字や不明瞭な部分の修正。
- 文書構造、もくじ、節と付録の分割
- 手続きの節に報告手順について記述
- 当該ジャッジからの供述、代理人を立てる権利について明記
- 深刻さに従って不品行の分類の記述順を変更
- 「DCI番号の不正、不適切な登録」を「イベントの完全性の侵害」に広範化・明確化
- 「贈賄、買収」の2つめの例を明確化

2014年12月1日版の変更点

- 初版。